



◎近年、幼児教育・保育がメディアで多く取り上げられるようになってきたが、そのほとんどは待機児童・保育者不足・保育料無償化が主である。

◎海外では乳幼児期の教育・保育の大切さが重要視されており、その質はメインであり、国の予算も大量に投資されている。

◎親の認識している情報には偏りがある。「誰でも天才に」「3歳までに…」といった情報をもとに保育所・幼稚園へもこういうことを求める声も多い。

◎保育者の役割や乳幼児教育の大切さ、毎日の保育がどれだけ重要であるかを、多くの方に知ってもらうことが大切であり、今がその変革期であると考えている。

【子ども主体の保育と協同的な学び】

◎乳幼児期に周りから肯定的、受容的、応答的に関わることが、子どもの発達上重要であると言われている。

◎目の前の子どもに肯定的、受容的、応答的に関わるのは、その子どものことをよく理解し、受け止められているということである。これはプロでないとできない。

◎子どもを理解し、関わることは基本ではあるが、子どもの気持ちを意識しながら関わるということは、さらに重要なことである。◎どんな保育を受けたか、どんな人に出会ったか、どんな経験をしたか、それが後々どのように影響を与えるかは分からないが、保育という仕事は、私達が思っている以上に大きな力を持っているのではないかと。場合によってはその子の人生にまで影響を与えるものだと感じる。

◎そう考えると、保育者の仕事はもっと理解され、感謝され、評価されるべきだと思う。しかし、残念ながらまだ分かってもらえていない部分も多いと感じる。

◎今、大きな乳幼児教育・保育の変換期にあると言え、今後5年から10年が一番重要であると思われる。

◎社会保障制度の中に医療・介護・年金に加え、子ども・子育てが入ったということ

は、重要なことと考える。乳幼児期の質の高い教育・保育のためにも、子どもや子育てにきちんとお金をかけていこうと宣言した制度でもある。

◎小さい子どもはまだ何も出来ない、と大人は思いがちだが、乳児期にも『学び』はある。私自身は胎児の時から学んでいると考えている。

◎主体性という、『元気で伸びのび』という姿の中にあると思いがちだが、実は一見『何もやらない』という姿の中にも、その子の主体性が隠れているかもしれない。

◎クラスの子も達を見た時に、『自分らしくある』ということが保障されているだろうか。この子はこの子らしさをどう発揮しているか、という観点から見ることは保育の中で改めて大事だと思う。

◎子どもが主人公性を発揮するには、周りの子ども達や保育者との関係も大切になってくる。そこに、対話や協同ということも起こってくるのだと思う。

【指針・要領の改定(訂)を受けて】

◎今回の3法令の改定(訂)で『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』が明確化された。これをツールとし、子ども達に『10の姿』が育っていることを小学校に説明することで、小学校1年生のスタートが異なってくると言える。

◎学習指導要領の改訂により、「小学校入学までに文字の読み書きを覚えてください」「45分間椅子に座れるようにしてください」ではなく、『主体的に学ぶ』ということ育ててきた延長線上に、小学校生活が始まる。

【倉橋惣三 誘導保育論】

◎倉橋惣三(以下:倉橋)は、「幼稚園真諦」などにおいて、フレーベルの遊びによる保育を基盤にしながら、当時のアメリカのプロジェクト的な視点に影響を受け、『生活を、生活で、生活』へという誘導保育論を唱えている。

◎子ども一人一人の自由な遊びを基盤にし、その発展的な保育の流れにプロジェクト的な視点を位置づけている。

◎保育者主導のプロジェクトになってしまうことなく、子どもの『心もち』や子どもの生活に寄り添う視点を主張している。

◎子どもの主体性を尊重しながら、保育者の意図性がある保育の難しさは、現在においても大きな課題と言える。

【主体的で対話的で深い学びとは】

◎倉橋は『生活を生活で生活へ』子どもの

興味・関心から離れないと言っている。しかし、実際は実に難しい。これを最近の言い方で言うと、文化的実践への参加という。文化的実践としての学びが協同的に生み出されるプロセスであると考えている。

◎子ども自身がおもしろいと感じて始めたことから文化が生まれ、その中に色々な人の「〇〇じゃない?」「△△してみよう!」が生まれてくる。そこにブームが起こってくる。それは、「プロジェクトをやります」というよりは、「結果的にプロジェクトみたいになった」ということなのではないか。

◎子どもの言葉を文章にし、写真と共に展示することで、「見える化」することは大事である。「〇〇ちゃんのやり方」ということが皆に見えるようになることによって、その子の良さが大事にされる。また、「〇〇ちゃんのやり方、俺もやってみよう」と、誰かのアイデアが他の子ども達に電波され、広がっていくことにつながる。

◎大きい年齢の子どもにとって、言葉を「見える化」することで、子ども自身が次に「こうしてみよう」「ああしてみよう」という思いが生まれやすいのではないかとと思う。

◎壁面は意外と使えるものであり、重要だと言える。絵本や図鑑も同様だが、ブームになったからといってすぐに出せばよいかどうかは判断が必要だと考える。

◎子どもの自分らしさや、主人公性が発揮され、子ども達の中で生まれてきた文化やブームのようなものを、保育者と一緒に探求し進めることにより、子ども達が学びを豊かに広げていけると考える。

◎1歳児であっても、子ども達のブームから文化が生まれ、主体的に動き出す姿が見られる。協同的な学びというと、4歳児や5歳児の話だと思いがちだが、実は小さな年齢の子ども達も同じである。

◎豊かで主体的な学びを保障するためには、安全・安心に預かることだけではなく、環境や保育者の関わりが大事だということが言えるのではないかと。

◎子ども主体の協同的な学びの保育を積極的に行っている園は、保育の質が高いという傾向にあると思う。



◎幼児教育の無償化により、保育がよりサービス化されることに懸念があるが、指針・要領等に掲げられているように、家庭と一緒に子どもを育てていくという関係をどう形成していくか、保護者の意思を巻き込めるかどうかが、これからの質になっていくと考える。

◎虐待の問題が盛んになっているように、家庭の子育てはますます難しくなっている。その時に、保育園・幼稚園・認定こども園の役割が極めて重要だと言える。

◎良質な保育を保障し、さらに、保護者を巻き込みながら一緒に育てていく時代が重要だということが言えると思う。

【横浜市の取り組みより】

◎現在、横浜市での接続期のカリキュラム作成(幼保小)において、私もその取り組みに参加している。有り難いことに、小学校の生活科の教員や指導主事が中心になって、「幼児教育に学べ」ということを発信してくださっている。「小学校が幼稚園に学べ」「子ども主体の遊びの学び」を小学校が発展させていくという図を早くから作っている。

◎「遊び」を中心とした幼児教育が小学校に繋がり、小学校はこれを受けて小学校生活をスタートさせていく。横浜市のいくつもの小学校が、4月に授業公開している。

◎就学に向け、園からは、「45分間座れる子にしなければならないか?」「字は書けるようにしなければならないか?」という質問が多くあるが、「5歳の終りまでに園としてどういう子どもに育てたいのかが大事ではないか」ということが、小学校の校長先生の間で話題となっている。

◎園で豊かに主体的に学んできた子ども達の姿を受けて、1年生をスタートさせようと動き始めている。

【今後への期待】

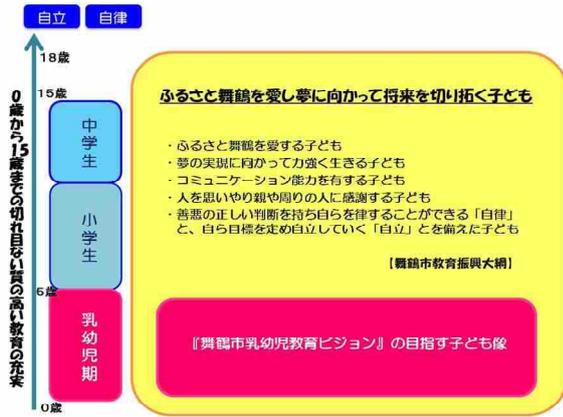
◎今、乳幼児教育・保育がひとつの大きな変革期にあると思う。その基本は、その子のその子らしさが大事にされることである。その子らしさが発揮される時に、その子の良さがぐっと出てくる。

◎その輪に協同や文化的な実践が生まれると、一人だけではない良さがどんどん生まれてくるのが、保育園・幼稚園・認定こども園という場所であり、家庭ではできない豊かな学びが保障される場ということではないか。

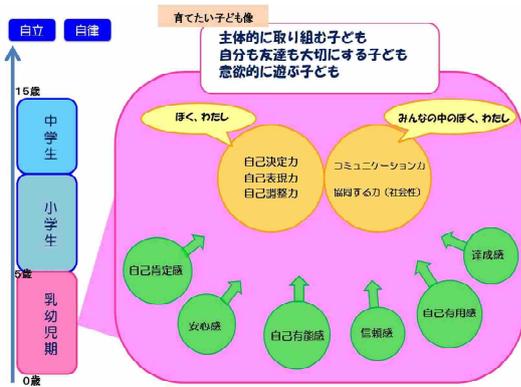
◎日本中にこういうことが大事だということ、舞鶴発で更に発信していくことを期待する。そのために、舞鶴の先生達の保育が幸せであることと、先生達が毎日していることが、質の高い専門職であると理解される一歩が進んでいくことを願う。



乳幼児教育ビジョン(平成28年度～30年度)策定の趣旨



乳幼児教育ビジョン ・育てたい子ども像 ・育てたい力、育てたいところ



乳幼児教育ビジョン 基本理念

主体性を育む乳幼児教育の推進

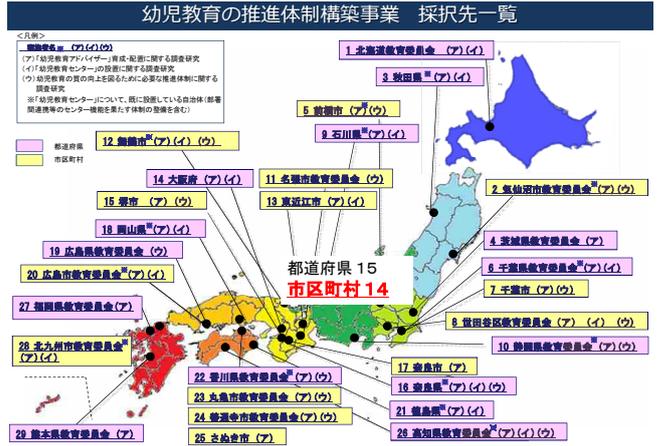
～みんなでつながり育む舞鶴の子ども～

◎主体性の育成

- ①自己決定力、自己表現力、自己調整力の育成のために大切にしたい関わり
- ②コミュニケーション力、協同する力(社会性)の育成のために大切にしたい関わり

◎自己を肯定するところの育成

- ①自己肯定感、自己有用感、自己有用感、達成感の育成のために大切にしたい関わり
- ②安心感・信頼感と愛着形成の確立



乳幼児教育ビジョン 講演会(全体会)



日時:平成30年6月23日(土)
 場所:商工観光センター コンベンションホール
 講演:「0歳からの子育て・子育て～育ちの連続性を大切に」
 講師 湘南 ケア アンド エデュケーション研究所 所長 増田 まゆみ氏

対談:増田 まゆみ氏(同上)
 北野 幸子氏(神戸大学大学院 准教授)

乳幼児教育の質向上研修

子どもを主体とした保育

(1)ドキュメンテーション研修、グループワーク

- ◎各園で書いているドキュメンテーションをもとにワークシートを活用して、保育や遊びの中の育ちや学び、保育者の関わり等をグループで語り合う。
- ◎対象を新任や初めてドキュメンテーションを書く保育者(フレッシュ)と保育のリーダーとなる保育者に分けて実施する。
- ◎育ちや学びを「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」や、「乳児保育に関わるねらい及び内容」「1歳以上3歳未満の保育に関わるねらい及び内容」を活用して見とる。

(2)公開保育、グループワーク、カンファレンス

- ◎園の公開保育と事後のグループワークにおいて実践者と参観者が保育を語り、大学の研究者によるカンファレンスを通じて学び合う。
- ◎公開園の研究テーマや視点(環境、保育者の関わり等)にもとづいて、参観者が保育を見とり、記録し、その視点をテーマにグループで協議する。

【研究指定園】

- ◎年間を通して園内に指導者が入り、保育参観・カンファレンス、園内研修、公開保育等を通じて、指導・助言を受ける。

文部科学省調査研究委託「幼児教育の推進体制構築事業」
 舞鶴市 平成30年度 乳幼児教育ビジョン推進事業

事業全体
 ◎乳幼児教育ビジョン推進事業 全体会・報告会
 ◎乳幼児教育フォーラム (市町村、委託研究自治体へ広報)

乳幼児教育センター・コーディネーター機能研究
 ○行政による乳幼児教育の拠点機能研究
 ○乳幼児教育の実践と専門家による研究等 各分野をつなぐコーディネーターの育成研究

乳幼児教育ビジョンの周知
 ◎講演会等の開催
 ◎子育て講座等において広報

乳幼児教育の質の向上研修 対象:保育所・幼稚園、小学校
 全体講師:北野幸子准教授(神戸大学大学院)

子どもを主体とした保育
 講師:北野幸子准教授(神戸大学大学院)
 ◇公開・カンファレンス
 ◇講義(ドキュメンテーション、保育リーダーの役割 他)
 ◇グループワーク(ドキュメンテーション、公開保育の記録をもとに 他)
 ◇保育実践カンファレンス

乳幼児教育の質の向上研修
 講師:清浦和成教授(兵庫教育大学大学院)
 ◎カリキュラム策定会議
 ・保育所、幼稚園、小学校、中学校の保育者・教員代表
 ・0～15歳を切れ目なくつなぐ 保幼小接続カリキュラム「まいつづるカリキュラム015」の策定
 ◎保幼小中連携研修
 ・全国・全校対象

保幼小中連携カリキュラム策定研究
 講師:清浦和成教授(兵庫教育大学大学院)
 ◎カリキュラム策定会議
 ◇講義・グループワーク
 ◇公開・カンファレンス
 ◎実践交流(連携活動の記録をもとに)

子どもを主体とした保育
 ◇研究指定園

乳幼児教育の推進体制構築事業検討会議
 文部科学省の調査研究委託事業の実施について、研究推進体制の検討、研究結果の分析やとりまとめ、普及等の意見を聴くため設置しているもの

乳幼児教育ビジョン推進事業 報告

①子どもを主体とした保育 公開保育・研修 経過

研修	日時	内容
ドキュメンテーション研修 (保育リーダー向け)	平成30年6月22日(金)	グループワーク:ワークシートをもとに事例を検討、事例をもとにドキュメンテーションを書いてみよう 指導:ドキュメンテーションを見て助言
ドキュメンテーション研修 (フレッシュ向け)	平成30年7月12日(木)	グループワーク:ワークシートをもとに事例を検討、事例をもとにドキュメンテーションを書いてみよう 指導:ドキュメンテーションを見て助言
公開保育 (相愛保育園)	平成30年7月13日(金)	公開保育・グループワーク・カンファレンス
ドキュメンテーション研修 (各園から持ち寄る)	平成30年9月18日(火)	公開保育・グループワーク・カンファレンスグループワーク:ワークシートをもとにドキュメンテーションを検討する 指導:事例のドキュメンテーションへ助言
公開保育 (昭光保育園)	平成30年9月19日(水)	公開保育・グループワーク・カンファレンス
ドキュメンテーション研修 (各園から持ち寄る)	平成30年11月12日(月)	グループワーク:ワークシートをもとにドキュメンテーションを検討する 指導:事例のドキュメンテーションへ助言
公開保育 (岡田保育園)	平成29年11月13日(火)	公開保育・グループワーク・カンファレンス

②子どもを主体とした保育 研究指定園 経過

日程	内容	講師他
平成30年 5月14日(月)	〇「子どもを主体とした保育」について ～新幼稚園教育要領より～	乳幼児教育コーディネーター
平成30年 6月8日(金)	〇保育参観 〇保育カンファレンス	講師 神代千恵子先生
平成30年 6月15日(金)	〇記録について	乳幼児教育コーディネーター
平成30年 8月3日(金)	〇保育参観 〇保育カンファレンス 〇各クラスの記録について	講師 神代千恵子先生
平成30年 10月12日(金)	〇保育カンファレンス 〇公開保育の指導案について	講師 神代千恵子先生
平成30年 10月26日(金)	〇公開保育・グループワーク、カンファレンス	講師 北野 幸子先生 神代千恵子先生
平成30年 12月7日(金)	〇保育参観 〇保育カンファレンス	講師 神代千恵子先生
平成30年 12月14日(金)	〇研究指定園公開保育の振り返り	乳幼児教育コーディネーター

乳幼児教育の質向上研修 保幼小連携

(1)指導案作成研修

市内の連携協力園・校の5歳児と1年生の連携活動年間計画をもとに、担任同士で指導案を立てる。

(2)連携活動の公開授業・保育、カンファレンス

連携活動を公開し、事後のカンファレンスを実践者と観客者が共有し、学び合う。

(3)実践交流会:研修

連携協力園・校がそれぞれ連携活動を記録し、その記録を活用して、活動の中の学びを見とるグループワークを実施する。

保幼小連携研修 経過

研修	日時	内容
第1回 指導案作成研修	平成30年8月18日(金)	グループワーク:連携協力園・校ごとに連携活動の指導案作成 講義:「連携におけるカリキュラムマネジメント～計画(指導案)及び評価(記録・省察)の重要性」
第2回 公開授業・保育 カンファレンス	平成30年11月13日(月)	中筋小学校3クラスとなかすじ保育園1クラス、池内幼稚園2クラスがクラス単位で連携活動を実施、公開
第3回 実践交流会	平成31年1月30日(火)	記録した連携活動の実践を交流

※3回連続研修という形式で、5歳児と1年生の保育者・教員が一緒に学び合えることも大切にしている。

保幼小中接続カリキュラム研究

- ・1年目(H28) …保幼小連携等について研修、意見交換
- ・2年目(H29) …具体的な議論と事例収集・検討
- ・3年目(H30) …**接続カリキュラム策定**

(1)事例(0歳から5歳の遊び、5歳児と1年生の連携活動、小・中学校の授業)の収集と検討

(2)事例に関連するねらい、内容等について検討

(3)カリキュラム案の検討

(4)カリキュラムの策定

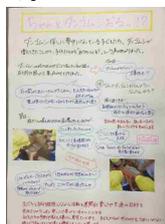
事例のねらい	事例の内容	事例の特色
事例1	事例2	事例3
事例4	事例5	事例6
事例7	事例8	事例9
事例10	事例11	事例12
事例13	事例14	事例15
事例16	事例17	事例18
事例19	事例20	事例21
事例22	事例23	事例24
事例25	事例26	事例27
事例28	事例29	事例30
事例31	事例32	事例33
事例34	事例35	事例36
事例37	事例38	事例39
事例40	事例41	事例42
事例43	事例44	事例45
事例46	事例47	事例48
事例49	事例50	事例51
事例52	事例53	事例54
事例55	事例56	事例57
事例58	事例59	事例60
事例61	事例62	事例63
事例64	事例65	事例66
事例67	事例68	事例69
事例70	事例71	事例72
事例73	事例74	事例75
事例76	事例77	事例78
事例79	事例80	事例81
事例82	事例83	事例84
事例85	事例86	事例87
事例88	事例89	事例90
事例91	事例92	事例93
事例94	事例95	事例96
事例97	事例98	事例99
事例100	事例101	事例102
事例103	事例104	事例105
事例106	事例107	事例108
事例109	事例110	事例111
事例112	事例113	事例114
事例115	事例116	事例117
事例118	事例119	事例120
事例121	事例122	事例123
事例124	事例125	事例126
事例127	事例128	事例129
事例130	事例131	事例132
事例133	事例134	事例135
事例136	事例137	事例138
事例139	事例140	事例141
事例142	事例143	事例144
事例145	事例146	事例147
事例148	事例149	事例150
事例151	事例152	事例153
事例154	事例155	事例156
事例157	事例158	事例159
事例160	事例161	事例162
事例163	事例164	事例165
事例166	事例167	事例168
事例169	事例170	事例171
事例172	事例173	事例174
事例175	事例176	事例177
事例178	事例179	事例180
事例181	事例182	事例183
事例184	事例185	事例186
事例187	事例188	事例189
事例190	事例191	事例192
事例193	事例194	事例195
事例196	事例197	事例198
事例199	事例200	事例201
事例202	事例203	事例204
事例205	事例206	事例207
事例208	事例209	事例210
事例211	事例212	事例213
事例214	事例215	事例216
事例217	事例218	事例219
事例220	事例221	事例222
事例223	事例224	事例225
事例226	事例227	事例228
事例229	事例230	事例231
事例232	事例233	事例234
事例235	事例236	事例237
事例238	事例239	事例240
事例241	事例242	事例243
事例244	事例245	事例246
事例247	事例248	事例249
事例250	事例251	事例252
事例253	事例254	事例255
事例256	事例257	事例258
事例259	事例260	事例261
事例262	事例263	事例264
事例265	事例266	事例267
事例268	事例269	事例270
事例271	事例272	事例273
事例274	事例275	事例276
事例277	事例278	事例279
事例280	事例281	事例282
事例283	事例284	事例285
事例286	事例287	事例288
事例289	事例290	事例291
事例292	事例293	事例294
事例295	事例296	事例297
事例298	事例299	事例300
事例301	事例302	事例303
事例304	事例305	事例306
事例307	事例308	事例309
事例310	事例311	事例312
事例313	事例314	事例315
事例316	事例317	事例318
事例319	事例320	事例321
事例322	事例323	事例324
事例325	事例326	事例327
事例328	事例329	事例330
事例331	事例332	事例333
事例334	事例335	事例336
事例337	事例338	事例339
事例340	事例341	事例342
事例343	事例344	事例345
事例346	事例347	事例348
事例349	事例350	事例351
事例352	事例353	事例354
事例355	事例356	事例357
事例358	事例359	事例360
事例361	事例362	事例363
事例364	事例365	事例366
事例367	事例368	事例369
事例370	事例371	事例372
事例373	事例374	事例375
事例376	事例377	事例378
事例379	事例380	事例381
事例382	事例383	事例384
事例385	事例386	事例387
事例388	事例389	事例390
事例391	事例392	事例393
事例394	事例395	事例396
事例397	事例398	事例399
事例400	事例401	事例402
事例403	事例404	事例405
事例406	事例407	事例408
事例409	事例410	事例411
事例412	事例413	事例414
事例415	事例416	事例417
事例418	事例419	事例420
事例421	事例422	事例423
事例424	事例425	事例426
事例427	事例428	事例429
事例430	事例431	事例432
事例433	事例434	事例435
事例436	事例437	事例438
事例439	事例440	事例441
事例442	事例443	事例444
事例445	事例446	事例447
事例448	事例449	事例450
事例451	事例452	事例453
事例454	事例455	事例456
事例457	事例458	事例459
事例460	事例461	事例462
事例463	事例464	事例465
事例466	事例467	事例468
事例469	事例470	事例471
事例472	事例473	事例474
事例475	事例476	事例477
事例478	事例479	事例480
事例481	事例482	事例483
事例484	事例485	事例486
事例487	事例488	事例489
事例490	事例491	事例492
事例493	事例494	事例495
事例496	事例497	事例498
事例499	事例500	事例501
事例502	事例503	事例504
事例505	事例506	事例507
事例508	事例509	事例510
事例511	事例512	事例513
事例514	事例515	事例516
事例517	事例518	事例519
事例520	事例521	事例522
事例523	事例524	事例525
事例526	事例527	事例528
事例529	事例530	事例531
事例532	事例533	事例534
事例535	事例536	事例537
事例538	事例539	事例540
事例541	事例542	事例543
事例544	事例545	事例546
事例547	事例548	事例549
事例550	事例551	事例552
事例553	事例554	事例555
事例556	事例557	事例558
事例559	事例560	事例561
事例562	事例563	事例564
事例565	事例566	事例567
事例568	事例569	事例570
事例571	事例572	事例573
事例574	事例575	事例576
事例577	事例578	事例579
事例580	事例581	事例582
事例583	事例584	事例585
事例586	事例587	事例588
事例589	事例590	事例591
事例592	事例593	事例594
事例595	事例596	事例597
事例598	事例599	事例600
事例601	事例602	事例603
事例604	事例605	事例606
事例607	事例608	事例609
事例610	事例611	事例612
事例613	事例614	事例615
事例616	事例617	事例618
事例619	事例620	事例621
事例622	事例623	事例624
事例625	事例626	事例627
事例628	事例629	事例630
事例631	事例632	事例633
事例634	事例635	事例636
事例637	事例638	事例639
事例640	事例641	事例642
事例643	事例644	事例645
事例646	事例647	事例648
事例649	事例650	事例651
事例652	事例653	事例654
事例655	事例656	事例657
事例658	事例659	事例660
事例661	事例662	事例663
事例664	事例665	事例666
事例667	事例668	事例669
事例670	事例671	事例672
事例673	事例674	事例675
事例676	事例677	事例678
事例679	事例680	事例681
事例682	事例683	事例684
事例685	事例686	事例687
事例688	事例689	事例690
事例691	事例692	事例693
事例694	事例695	事例696
事例697	事例698	事例699
事例700	事例701	事例702
事例703	事例704	事例705
事例706	事例707	事例708
事例709	事例710	事例711
事例712	事例713	事例714
事例715	事例716	事例717
事例718	事例719	事例720
事例721	事例722	事例723
事例724	事例725	事例726
事例727	事例728	事例729
事例730	事例731	事例732
事例733	事例734	事例735
事例736	事例737	事例738
事例739	事例740	事例741
事例742	事例743	事例744
事例745	事例746	事例747
事例748	事例749	事例750
事例751	事例752	事例753
事例754	事例755	事例756
事例757	事例758	事例759
事例760	事例761	事例762
事例763	事例764	事例765
事例766	事例767	事例768
事例769	事例770	事例771
事例772	事例773	事例774
事例775	事例776	事例777
事例778	事例779	事例780
事例781	事例782	事例783
事例784	事例785	事例786
事例787	事例788	事例789
事例790	事例791	事例792
事例793	事例794	事例795
事例796	事例797	事例798
事例799	事例800	事例801
事例802	事例803	事例804
事例805	事例806	事例807
事例808		

(1) ドキュメンテーション研修

【目的】

各園で書いているドキュメンテーションをもとに保育を振り返り、保育について検討することで・・・

- 子どもの姿、言葉(事実)から、育ちと学びを見とる。
- 保育者のねらい、関わり、環境を考える。
- 保育には様々な見方や方法があることを知る。
- 年齢発達をとらえる。



【概要】

①対象者を分ける

初めてドキュメンテーションを書くフレッシュと保育のリーダーとなる保育者とに分けて実施

⇒対象者に合わせた内容

方法や事例を園内研修として利用

②グループワーク～自分の書いたドキュメンテーションを検討

ワークシートを使って、ドキュメンテーションを見る視点(書く視点)にもとづいて協議

⇒保育を語ること、様々な視点で見とること

③「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」や「乳児保育に関わるねらい及び内容」「1歳以上3歳未満の保育に関わるねらい及び内容」を活用

⇒新指針・要領を学ぶ

(2) 公開保育～研究指定園～

【目的】

新保育所保育指針、新幼稚園教育要領について、理解を深め、実践にいかしていくため、研究園を指定し、園内研修や公開保育等を実施し、市内の保育者・教員が互いに学び合う研修の機会を提供し、質の高い乳幼児教育の推進を図る。



【概要】

①園内研修・研究

※年間を通じて講師による指導・助言

- 保育参観・保育カンファレンス
- 記録
- 乳幼児教育コーディネーターによる園内研修

②公開保育

- 指導案の作成
- グループワーク・カンファレンス



(2) 公開保育

【目的】

○乳幼児教育ビジョンの基本理念「主体性を育む乳幼児教育」の推進に向け、研修等を通じて、園・校種、公私を越えて共に学び合う。

○公開保育を通じて、実践者も参観者も互いに保育を振り返り、学び合う機会とし、質の高い乳幼児教育を目指す。



【概要】

①公開保育

○公開園：事前勉強会(指導案、ドキュメンテーション)、園内研修指導案の作成

※園といっしょに園の特徴、現状、課題について検討し、公開保育研究テーマ、公開保育の視点を設定

○参観者：指導案を事前に読んで参加。当日、研究テーマ、視点を共有し、視点に基づいた子どもの姿や環境保育者の関わり等を記録

②グループワーク

○研究テーマ・視点に基づいて、実践者と参観者が保育について意見交換

③カンファレンス

○大学研究者より指導・助言を受け、学び合う

(3) 経過報告

研修	日時	内容
ドキュメンテーション研修(保育リーダー向け)	平成30年6月22日(金)	グループワーク:ワークシートをもとに事例を検討、事例をもとにドキュメンテーションを書いてみよう 指導:ドキュメンテーションを見て助言
ドキュメンテーション研修(フレッシュ向け)	平成30年7月12日(木)	グループワーク:ワークシートをもとに事例を検討、事例をもとにドキュメンテーションを書いてみよう 指導:ドキュメンテーションを見て助言
公開保育(相愛保育園)	平成30年7月13日(金)	公開保育・グループワーク・カンファレンス
ドキュメンテーション研修(各園から持ち寄る)	平成30年9月18日(火)	公開保育・グループワーク・カンファレンスグループワーク:ワークシートをもとにドキュメンテーションを検討する 指導:事例のドキュメンテーションへ助言
公開保育(昭光保育園)	平成30年9月19日(水)	公開保育・グループワーク・カンファレンス
ドキュメンテーション研修(各園から持ち寄る)	平成30年11月12日(月)	グループワーク:ワークシートをもとにドキュメンテーションを検討する 指導:事例のドキュメンテーションへ助言
公開保育(岡田保育園)	平成29年11月13日(火)	公開保育・グループワーク・カンファレンス

(3) 経過報告～研究指定園～

日程	内容	講師他
平成30年5月14日(月)	○「子どもを主体とした保育」について～新幼稚園教育要領より～	乳幼児教育コーディネーター
平成30年6月8日(金)	○保育参観 ○保育カンファレンス	講師 神代 千恵子先生
平成30年6月15日(金)	○記録について	乳幼児教育コーディネーター
平成30年8月3日(金)	○保育参観 ○保育カンファレンス ○各クラスの記録について	講師 神代 千恵子先生
平成30年10月12日(金)	○保育カンファレンス ○公開保育の指導案について	講師 神代 千恵子先生
平成30年10月26日(金)	○公開保育・グループワーク・カンファレンス	講師 北野 幸子 先生 神代 千恵子 先生
平成30年12月7日(金)	○保育参観 ○保育カンファレンス	講師 神代 千恵子 先生
平成30年12月14日(金)	○研究指定園公開保育の振り返り	乳幼児教育コーディネーター

【主任・5歳児担任より】

子どもの主体性を育む遊び・活動

【環境】

○玩具や教材の置き方については、発達や子どもの興味・関心をもとに考えて整えていき、「ねらい」や「意図」を持ち、量にも配慮していく



子どもの主体性を育む遊び・活動をおこなう上で、まずは「環境」について考えていきました。玩具や教材の置き方については、発達や子どもの興味・関心をもとに考えて整えていき、「ねらい」や「意図」を持ち、量にも配慮していきました。



例えば、「お店屋さんごっこやままごと」などで、3、4、5歳児が全く同じ遊び、同じ玩具を置くのではなく、年齢発達に応じた環境。例えば3歳児なら見立て、模倣をする発達段階であるためイメージのしやすい、より、リアリティなものを用意する。同じ遊びでもどこに『ねらい』があるのかを考えて環境を構成することが大切です。



○年齢発達に応じ、どこに『ねらい』があるのかを考え環境を構成する



また、子どもが「空き箱で遊びたい」とか「粘土遊びしたい」とか「もっとうQしたい」とか興味・関心を持った時、十分に対象に関わる経験ができるよう、時間や場所の保障をしていくと共に、繰り返し試したり、遊んだりできるような素材や道具などを工夫していきました。

それぞれの遊びが盛り上がるにつれ、停滞していく遊びも見られるようになりました。子どもが遊ばなくなってきた時には、なぜ遊びが停滞するのか、子どもの様子を



○子どもが興味・関心を持ち、十分に対象に関わる経験ができるような時間や場所の保障

○繰り返し試したり、遊んだりできるような素材や道具などの工夫

○なぜ遊びが停滞するのか、子どもの様子を見ながら環境を考える

○保育者は「こんなものがあるよ」「これはどう？」と提案することが大事



見ながら環境を足したり、一旦片付けるなどしてはどうか。また、全く別のものにする場合、保育者が一方的に押しつけるのではなく「こんなものがあるよ」「これはどう？」と提案したりしました。4歳児ですが子ども達の話し合いで段ボールで作った海賊船が消防車に展開した例もあります。



【保育者の関わり】

○きっかけやスタートは、子どもが主体であり、子どもの興味や関心を見逃さないことが大事



「保育者の関わり」については、「どんな子どもに育てて欲しいか、保育者が大事に思っているところは何かなど、年齢に応じた願いを持って関わることを大切にします。遊びの中で一人一人の子どもがどんなことをしているのか、何に興味を持っているかをしっかり見守ることが重要。何故そのあそびをしているのか、きっかけやスタートは子どもが主体であり、子どもの興味や関心を見逃さないことが大事。

保育者が前に出るのではなく、子どもと話し合いながら、子どもの意見や考えを引き出し、子ども同士の気づきや共感を大切に子どもと共に一緒に生活を作っていくことだと思います。



○保育者が大事に思っているところは何かなど、年齢に応じた願いを持って関わる

○子どもの意見や考えを引き出しながら、子ども同士の気付きや共感を大切に、一緒に生活を作る



「きょうなんだか楽しそうだったね。みんなに教え合いつついかが」「おはなしタイムしよう」と言って始め

記録について

○子どもが試したり工夫したり、考えたり発見したりしている姿など、焦点を絞る

○『何かができた』ということなどを、あえて形に残そうとしなくてもよい

○『こういう風に育った』ということだけでなく、どんな気持ちで子どもを育てているのか、子どもに対する思いを書いていく



また、「振り返り」については、人と関わることや、友達と遊ぶ楽しさを「振り返り」の中で共有する事を大切にしてきました。「今から振り返ります」ではなく、

【振り返り】

○人と関わることや、友だちと遊ぶ楽しさを振り返りの中で共有する

○子ども自身が、話せてよかった、友達の話聞いておもしろかったと思うことを大切にする



す。遊んでいるときに、「いい考えだね。みんなに教えてあげてね。」と声をかけておいたり、また、おはなしタイムの時、話を広げたりふくらますには、「誰としてなの？」「じゃあY君も教えて」「他にも見てた人教えて」等々助言の仕方の実践にも取り組みました。

立派なことをした子だけが話すのではなく、「すごかったね」とか「いいことを発見したね」と受け止め子どもに返していくと子どもの声がどんどん出てきました。子ども自身が、「話せて良かった。」友達の話聞いて「おもしろかった。」と思えるような共有の場になるようにしていきたいと思います。

記録について

保育を記録することは一人一人の子どもの姿をよく見ることに繋がり、子どもの興味や関心がより見えるようになります。また保育者自身の保育を振り返る機会となり、課題や次への保育の方向性を見いだすことにもつながることから、記録に取り組むこととしました。

○遊びの経過を書くだけでなく、子どもが試したり工夫したり考えたり発見したりしている姿などを焦点を絞って書いていく。

○発達に合った遊びを考えていくことが大切であり、誰が何をしようとしているかをよく見ていくことが大切である。『何かができた』ということなどを、あえて形に残そうとしなくてもいい。

○『こういう風に育った』ということだけでなく、どんな気持ちで子どもを育てているのか、こんな風に育ってほしいという子どもに対する保育者の思いを入れることで、ひとりひとりの子どもを大事にしているということを発信していくことが大切である。



公開保育前後の5歳児クラスの子どもの一事例を紹介します。

〈5歳児のあそびの発展〉

常時、おうちの方の協力を得て、どんぐりやまつぼっくり、トイレットペーパーの芯や空き箱等持ってきてもらっているのですが、たまたま、貝殻を持ってきた子がいました。

それを見て女の子たちが「わあきれい！」「なにかできないかなあ」「わたし、かいがらつなげてみる」「わたしも」等々言い出したくさんアクセサリーができ、まつぐみでアクセサリー屋さんがオープンしました。

ところが翌日、たくさん作ったはずのアクセサリーがなくなっていたのです。これにはこどもたちはびっくりでした。「なんで？」「どこいったん？」「だれかもっていった？」などなど最後にはだれかをちょっと疑ってしまったり、そしたらある子が「どろぼうにとられたんちゃう？」と言ったのです。

そこで、「じゃあ防犯カメラつける？」「防犯カメラつくる！」「つくる、つくる！」と防犯カメラができました。すると「警察官もいるんじゃない？」「わたし警察の人になる」「警察の人がおるんならどろぼうのひとがいるんちゃうん？」「じゃあ、ぼく、どろぼうになる」「ぼくもどろぼうになるかな」と、どんどん話が子どもたちの間で膨らんでいきました。「どろぼうをつかまえたらうやがいるなあ」と「ろうやがあるんならそれを取り締まる交番がいるなあ」と牢屋と、交番が廊下にできました。

こうして貝殻をもってきることがきっかけとなり、ごっこあそびが違うあそびに発展し新しいものが生まれました。こどもたちは常に興味や関心が環境に応じて変わっていきます。そこを見逃さず遊びを発展させていくのが保育者だと思います。



研究指定園として取り組む中での教育内容、子ども、保育者等の変化

このように研究指定園として取り組んできた中で、教育内容やこども、保育者において次のような変化が見られました。

○子どもが自ら好きな遊びを見つけられる環境が常に保育室にあり、子どもが十分に遊び込める空間と時間の保障をすることで遊びがつながるようになった。

○自分の思いが言えないが多かったが、子どもを主体とした保育に取り組む中で「これがしたい」という思いが出てきて自己発揮する姿が見られるようになった。

○「これはMくんが得意やで」と友達のことを認める姿も見られ、それぞれの子どもの得意なことや苦手なことを共有することができるようになった。

○子どもが今何に興味や関心を持っているかを見てどんな遊びがあるかを考え、子どもたちと一緒に環境を工夫していく中で遊

びが展開していくようになりました。遊びが展開していけば行くほど子ども達一人一人の良さが本当によく見えてきたのも事実です。

詳細に当たってはまだまだありますが、今回の研究を踏まえて、主体的に遊ぶ子どもを育成するためには、子どものつぶやきや会話に意識して耳を傾け、その遊びの中にどんな学びがあったか、又、子どもがその遊びをどうしたいのかを、保育者は気付き予測し子どもの遊びに着目する。事例でもあったように子ども同士で気付き合い遊びを展開していくその能力。その能力こそ子どもの資質能力であり自力で生きていける能力だと思います。私たちは少しでも子どもの資質向上のため、子ども一人一人の個性を伸ばす手助けを、まずは目の前の子どもの何を育てたいのかどんな子に育てたいのかを常に意識して子どもたちを大事に思い、そして私たち保育者も楽しみながら子どもの将来のため今後も継続して研鑽を重ねていこうと思っています。

相愛保育園

相愛保育園 公開保育の研究テーマ・視点

【公開保育研究テーマ】

保育者自身が他園の公開保育等に参加する中で、園の特色も活かしながら、遊びやその時間、環境、主体性を育む保育について学びたいと考えている。子ども達が自分で考え、行動したり、遊びに夢中になったりするためにはどのような環境が必要なのか、どのような関わりをしていくとよいのか、試行錯誤している。

【公開保育の視点】

主体性を育むための時間、環境、遊びや保育者の関わりについて



環境を考える
水の位置＝色水の場所

砂場にバケツで運ぶ？
ホースを近くまで引く？
スプリンクラーを置く？



公開保育より



素材(花、葉っぱ)は近くに

公開保育前後の変化について

「先生どうするの？」

自分からという姿が少ない、指示待ちの子が多い

環境を変える

「いろいろな素材でものづくり」「構成遊び」
「ままごと」「絵本、調べる」

遊び方を知らない、保育者が一緒に

数の調整、置き方の工夫、振り返り
子どもの興味関心に合わせて環境を変えていく

子どもに変化



川をつくる(水を流す)つなげる



遊びの広がり

川作りを楽しむために・・・

流れ⇒高さ

深さ

浮く

いろいろな方面から試す、工夫する遊び



高さ

公開保育より



ままごと、車(ブロック)、手先を使った遊び、絵本など2歳児の年齢発達に合わせた環境
⇒生活経験を模倣する2歳児

子どもの年齢や
興味・関心に合わせて

公開保育より

- 子ども達が自分達で遊びの準備をしたり、片付けも意欲的に。
- 個々の製作から、協同の製作に。
- 子ども同士の会話が増え、遊びが継続し、広がる
- 乳児の行事を保護者の参観型から参加型へ見直し

子どもの興味・関心から環境を工夫する 日々の遊びを行事にいかしていく



**環境を考える
子どもが見つけた場所**

水たまりはどろんこ遊びが楽しい
どろだんごもつくれる

遊びの途中でも、子どもの様子を見て、テントや机など移動し、臨機応変に環境を変える
子どもと一緒に変える

⇒環境の再構築

公開保育より



事で、少しずつではありますが、子ども達の遊びにも変化ができました。

乳児クラスは、子どもの様子をみながら部屋に自由に遊び出せるおもちゃを作り、指先を使った遊び等を作ったので、子ども達が好きな遊びを選んで遊べるようになりました。そうする事で子ども達の好きな遊びもわかり始めてきました。ままごと遊びでは、お母さんの真似をして一人遊びが主でしたが、遊び込めるようになり、「○○しようか」「○○ごっこしよう」と友達同士で誘い合いながら楽しめるようになった子も出てきました。環境を整えることで子ども同士のトラブルが減り、子ども達が落ち着いて遊べるようになったことから、環境構成の大切さを感じました。今後は個々の遊びをどのように発展させていくかが課題です。

幼児クラスでは、今まで部屋でしていたお店屋さんごっこを共有スペースで行うようにした事で遊びがより展開しました。例えば、5歳児の子ども達が遊んでいた回転寿司屋さんごっこでは、レジやお金、メニュー表を自分達で考えて作り、そこに店員さん、レジ係、さらにはお皿の回し係等、役割を決めて遊ぶようになりました。5歳児が楽しそうに遊んでいる姿を見て、「お寿司屋さん行ってくる」と言って小さいクラスの子が遊びに入っていく姿が見られるようになってきました。どんどん遊びが展開し、マグロの解体ショーを見せてくれるお友達もいます。なかなか広がらなかった遊びが、ようやく継続し、楽しめるようになってきました。

しかし、運動会や発表会等、行事の前になるとその為の練習が入り遊びの継続が難しく、この機会に行事も少しずつ見直しています。これまでの「発表をみたい」という保護者の意見を取り入れていた乳児クラスの発表会を参観型から参加型にし、親子でふれあって遊んでいただく内容にしました。幼児クラスも、今どんな事に興味を持っているのかを見ながら遊びやすい環境を工夫する中で、行事の持ち方、日々の遊びを行事にどう繋げていくか、今後考えていながら保育士間の更なる共通理解に向けて取り組んできたいと思っています。

【主任より】

公開保育を受けるにあたり、緊張感に包まれた当園は、「まず何から始める」と言う保育士の葛藤からスタートしました。そこで、全職員が同じ気持ちで取り組めるよう何度も話し合いを持ち、また乳児、幼児組に別れ現在の保育のあり方と子ども達の様子について考えてみました。

当園は今まで保育士主体の設定保育が主であった事もあり、子どもの主体性を上手く引き出す事が出来ず、指示待ちの子が多かった様に思います。まずは、環境の見直しをしました。

環境として、各保育室を「素材を集め子ども達が自由に使える様にした物作り」「構成遊び」「ままごと」「絵本、調べ物をする」コーナーに分けました。又、手作りのおもちゃやままごと遊びの生活にあるものを作りました。目新しいものがいっぱい並び、嬉しいばかりで玩具を転々とし、触ってみたい気持ちばかりで遊び込むというよりは触って壊してしまう、食べ物も床に散らかしっぱなし。保育士が思い描く遊び方ではなかったので「数の調整」「置き場所、並べ方の工夫」「子どもの遊びの中に保育士も入り、一緒に遊びながら子どもの声を拾う」「振り返りをする」「子どもの興味や関心にあわせて環境を変えていく」ようにしました。このようにした

昭光保育園

昭光保育園 公開保育の研究テーマ・視点

【公開保育研究テーマ】

子ども自らが興味を持ち、発見したり、深めたり、考えたり、好きな遊びを思う存分楽しめる保育に変えていくためには何をどうすればいいか、迷いながら、環境や保育者の関わりについて園内で話し合ってきた。環境を変えることで子どもの遊びが変化し、その中で保育者はどう子どもに関わるのか、保育者同士で共有しながら試行錯誤している。

【公開保育の視点】

子どもの興味・関心をもとにした環境構成
遊びを広げていくための保育者の関わり



様々な素材に触れる
工夫する
試行錯誤する



公開保育前後の変化について

保育者の関わり

- 子どもへの言葉かけ～
- 子どもの様子を見て問いかける
- 一緒に考える



環境

- 素材や道具に触れる経験
- ごっこ遊び～子ども同士の会話、保育者とのやりとり～

保育を見直す

- 遊びの時間、1日の流れ、1年間の流れの見直し
- 他園の公開保育に積極的に参加して学ぼう



何度もふれる
繰り返す

ごっこ遊びを通じて
やりとりを



公開保育を受けてよかったこと

- 職員間で話し合う機会が増え、子どもの様子を想像しワクワクした。
- 子ども達が「～していい？」と聞かずに遊べるが増えたと思う。すぐに答えを言わず、子どもが考えてみるような声かけに変わったと思う。
- みんなで共有するコーナーやホールの使い方、絵本の置き方等、環境を考える機会になり、見直すことで子どもの遊びが変わったと感じる。
- 今まで、同じ環境で過ごしてきて当たり前と思っていたことが、違う視点や方法に気づかせてもらえてよかった。

保育者も主体的に自己発揮

【主任より】

初めての公開保育ということもあり、とまどいの中のスタートでした。

他園の公開保育にも参加し、それぞれの特徴を勉強させていただきました。

その中で、“環境”“子ども”とそれぞれ違うことから、上手いかわない事もあり、職員間で話し合い、自園に合った環境を整え、より一層工夫するようになりました。

子どもに対する声かけがつい大きくなっていないか？など、話し合いをする中で今のままでいいのか？と思うようになり、すぐに声をかけるのではなく、子ども達の様子を見て、一緒に考えることで自然と声量も大き過ぎる事がなくなり、“どうするのがいいかな”など声かけも変わり始めました。

環境としては、各クラス話し合い、年長・年中児クラスに製作棚を設けました。

そうすることで、子どもが自由に製作することが増え、道具や素

材を十分に使いこみ経験する事で、正しい使い方や量などを学んでいく姿も見られるようになりました。

たのクラスでも、ままごとコーナーが常にある事で、自然とごっこ遊びが展開され、「いらっしやいませ～」「ジュースです！」「どうぞ」といった友だち同士の会話・保育士との言葉のやり取りも今まで以上に見られるようになったと感じています。

外部の人に見てもらい、今までの保育を一度見直すことができ、毎日の保育の様子を伝え合う事で、他のクラスの子どもの今の姿等も共有できているのではないかと思います。

子どもの主体性を生かした保育を、今も上手く取り入れられているのか？と、まだまだ試行錯誤中ですが、今回の取り組みを良いきっかけとして、日々の遊びの時間、一日の流れなどを見直していきたいと思えます。

そして、今後も他園の公開保育に積極的に参加させて頂きたいです。

岡田保育園

岡田保育園 公開保育の研究テーマ・視点

【公開保育 研究テーマ】

「夢中になって遊び込む」をテーマで日々保育実践している。秋も深まり、子ども達の興味関心、やりたいこと、試したいこと、経験も様々重ねてきている。盛んになってきている自然素材、身近な教材を使っている製作遊び・ごっこ遊び等を保育者が、どう広げたり、繋げて行けば良いかを話し合い、保育の充実に取り組んでいる。本園の環境を通して、子ども達は何に気付き、学びへと繋げているかを考えていきたい。

【公開保育の視点】

- ◎環境と子どもの姿
- ◎子ども同士の関係性
- ◎保育者の関わりと子どもの姿の視点で保育を見とる



保育者と一緒に
一人で集中して



5歳児 秘密基地



- 記録・・・エピソード記録、ドキュメンテーション等
⇒夢中になって遊ぶ子ども姿や学び
保育者の思いが書ける



- 計画、指導案
子どもの姿(記録)をいかして、指導案(計画)を作成する

⇒保育者の保育力の向上につながる
これから、学んでいきたい





イメージしたものを作る



また遊ぼう



いつでも遊べる



知りたい 見てほしい



いつでも試せる

【主任より】

保育者全員で共有することについて

「夢中になって遊び込む」環境整備と保育内容の充実に近年取り組み、子ども達は日々、興味・関心から遊びを広げ、次々と展開させています。そこで、子ども達が何に気付く・感じ・遊びを展開させる瞬間に寄り添い、関わる保育者の援助には課題も感じていました。

公開保育や研修にみんなが参加することは難しく、他園の公開保育の様子や研修会での学びを職員会議での報告や回覧という形ではしていましたが、なかなか職員全体への共有には繋がらず、苦慮もしていました。また、中途採用の保育者には、近年取り組んできた本園の保育を伝えることは容易ではなく、常勤、非常勤によって意識の差も感じられました。

そこで、具体的に、保育者の関わりの良かった点、こんな関わりもあるといった点や、環境の見直しなど、乳児・幼児のリーダーが気づいた時に確認し合い、小グループでの話し合いを繰り返しました。小グループでの語り合いは、保育者同士が思いを伝え合い、意見も言い易くなり、保育への理解も深まってきました。ある非常勤保育士からは「こんなに一つの遊びに対して深く考えたことがなかった。」「次は、どんな風に遊びが展開するのか、楽しみに思える。」との声も聞かれました。

こうした些細な取り組みや公開保育がきっかけとなり、保育者の意識を向上させ、さらに保育者自身が保育を担う主体になり、全保育者での共有につながったと感じています。

公開保育を受けて

『夢中になって遊び込む』保育を目指して…
けれど…それぞれの意識の差

⇒乳児・幼児の保育リーダーを中心に小グループの話し合い(プチ会議)

保育者から…

「こんなにひとつの遊びに対して深く考えたことがなかった」
「次は、どんな風に遊びが展開するのか、楽しみに思える」



全員が保育を担う主体になる、共有する

公開保育後…

○誕生日へのプレゼントを子ども達で作る
⇒誕生日の好きな物をリサーチして、材料も準備して作る
子ども達の考えた企画も



○日めくり式のドキュメンテーション
⇒子どもと保護者が一緒に見てくれる
⇒子ども同士が振り返り、遊びをすすめる

記録・指導案について

公開保育を通して、特に学びが大きかった点は、指導案の作成でした。記録については、子どもの姿から、何を記録として残すか、明日へと繋がる意味ある記録は何かを考え、春から保育者それぞれが意識して書いてきました。また、週日案に、子どもの姿やエピソードを書き加えることで、クラスだよりや掲示物にも子どもが夢中になっている姿や学び、保育者の想いが記載できるようになってきました。

しかし、事実を捉え、日々の育ちを計画に落とし込み、文字化することは、正直、難しかったです。記録をいかして計画や指導案を書くことは、保育力の向上にもつながると感じています。これをきっかけに学んでいきたいと思えます。

公開保育を通じて、子ども達の興味・関心のあることに寄り添い、育みたいそれぞれの「力」を意識して、環境作り、記録、保育計画の立案等に取り組むことが重要であると、再認識しました。

したい・やりたいを増やす～誕生会の取り組みから～

最後に、公開保育後の子ども達の姿をご紹介します。

一昨年から誕生会では、年長児が誕生日に好きな物を聞き、プレゼント作りをしています。今年は、その様子を見ていた4歳児も製作に加わり、3歳児は自ら作ってほしい物を頼みに行く姿も見られました。皆を祝う、楽しませたい気持ちが育ち、5歳児は手作りペーパーサート上演も先月行いました。子ども達のしたい、やりたいことが次々と実現しています。

また、今回 4歳児のクラスの前に日めくり式のドキュメンテーションを掲示しました。すると、子どもと保護者がそれを一緒に見ながら語り合っていたり、子ども同士でもよく見て振り返り、自分達で遊びを広げていたりする様子が見られました。